

研究報告書

経営学部 会計ファイナンス学科 藤尾美佐

報告者, 藤尾は, 現在「大学間・インバウンド・キャリアとの連携による異文化間コミュニケーション能力の育成」という科研費研究 基盤研究 (C) 17K34567の代表を務めており, 今回の交換研究ではこの研究内容を進めることを一番の目標としていた。

この研究の目的は, 留学の事前研修は様々研究されているものの, 事後研修への関心は相対的に薄く, 留学で得た語学力を持続的に維持しキャリアに繋げていくためには, 事後研修にどのようなプログラムを充実させ, それをキャリアにどのように繋げるかを調査することである。本研究は, 実施直後の研究の1年目の終わりに, コロナ勃発という不測の事態に直面したため, 大学間のセミナー(大学を跨いで留学した学生同士による意見交換会)やオリンピックによって来日する外国人観光客との交流(インバウンド)を授業内に組み込んでいくという構想(システム作り)が, 大幅な見直しを迫られることとなった。

そのため, 交換研究に行く前には, 研究対象をある程度オンラインに移し, オンライン及び対面留学に行った学生のアンケート調査の比較をパイロット・スタディ的に行っていた。しかし, 交換研究に行った時から, イタリアでのコロナ規制がほぼ全面的に解除され, ヴェネツィア・カフォスカリ大学(以下「カフォスカリ大学」という)には, 多くの留學生が戻ってきた。そのため, 1) 留学中の調査(留學生への対面でのインタビュー調査)を行うことができ, これらのインタビューは, 今後, 英語圏への留学の成果と比較しながら, 分析し, 論文にまとめるつもりである。さらに, イタリアの隣国スロベニアの英語教育の調査も行うことができ, こちらも別途発表し, 本の一章として刊行予定である。

2) 今回の交換研究で一番力を入れた研究は, カフォスカリ大学と東洋大学の合同授業である。この合同授業は, 当初考えていた大学間のセミナーの代替になるものである。本研究報告のII教育上の成果の中でまとめている。

3) また, イタリアで活躍する日系企業のビジネスパーソンのインタビューも取れ, これはグローバル人材に関する論文として別途発表する予定。

最後に, イタリア国内外から多くの招待講演の機会をいただき, 日本の国際化について講演できたのは, 私個人にとっても, 東洋大学の国際化を広める意味でも, 大変貴重な機会になったと思う。

以下は, 昨年度の成果として, I 研究上の成果を報告した後, II 教育上の成果では, 上述の合同授業の様子をまとめている。さらに, III イタリアでのデータ収集を, 今後どのように分析し発表していくかについてまとめる。最後に, IV 今後の協定校の可能性について言及する。

I 研究上の成果

1) 学会賞受賞

JACET(大学英語教育学会)より,2022 年度大学英語教育学会褒賞(優秀賞)を受賞した。
(オンラインでの表彰式にも参加)

受賞作は、『A Pragmatic Approach to English Language Teaching and Production』
(風間書房、2019 年、分担執筆。)担当章は Chapter 3 (pp. 63-82)「Differences in
the quality of interaction between spoken and written communication」で、話し言
葉と書き言葉の相違点,それを踏まえた英語教育の重要性を論じている。これは、以下の
URLでも紹介されている。

<https://www.toyo.ac.jp/news/academics/faculty/fba/20220929fujio-prize/>

2) 著書

- ① 『国際コミュニケーションマネジメント入門』(2022 年 4 月,分担執筆)(アスク出版)
(第 17 章 「国際コミュニケーションにおけるプレゼンテーション能力」pp196-206)
- ② 『京都伝統文化の英語表現事典』(2022 年 7 月共著)(丸善出版)
(第 1 部 pp. 1-45, 第 2 部 pp. 62-77, 第 4 部 pp. 250-255)

3) 論文

- ① 藤尾美佐(2023)「英語教育におけるリーダーシップ育成の試み -グループ・ワークを
通じて-」(実践報告) 経営論集第 100 号, pp. 193-210 (添付あり)
- ② Fujio, M. (2023)(in press)「New opportunities for Japanese universities to
internationalise communication courses」*The Journal of Technical Writing and
Communication* (SCOPUS Journal)

4) 学会発表

- ① 招待パネル『Virtual Classroom Innovation in Engagement: New Normal in Teaching
Business Communication in the Asian Pacific Region』(2022 年 10 月 4 日)
The 87th Annual International Conference of the Association for Business
Communication (ABC 学会 第 87 回年次大会)(On-line) (英語による発表)
- ② 学会発表「New Directions for Fostering Globally-Minded Leaders in Japan Under
COVID 19」(2023 年 1 月 13 日 対面) ABC Regional Conference, Europe, Middle
East and Africa (Italy, Naples) (英語による発表)

5) 招待講演

- ① 招待講演 「Challenges of the Japanese Society for Globalization: How to Develop Global Managers」 (2022年11月9日) American University of Rome (英語による講演)
- ② 招待講演 「Global leaders and language ability」 (2022年11月10日) Temple University Rome Campus (英語による講演)
- ③ 招待講演 「Roles of Language in International Business: The Future is Transdisciplinarity」 (2022年12月7日) Zurich University of Applied Sciences (博士課程) (英語による講演)
- ④ 招待講演 「国際舞台で活躍できる人材育成ー日本の大学生に圧倒的に欠けている能力とは?ー」 (2022年12月16日) 青山学院英語教育研究センター講演会 (『青山学院英語教育研究センター 2022年度 研究活動報告書』 pp. 34-44 に報告書記載)

6) 学会・研究会での外国人講演者(ゲスト・スピーカー)の招聘・Coordination

- ① J B C A (国際ビジネスコミュニケーション学会) 第117回関東支部大会
 日時: 2022年9月24日
 発表者: Bonaventura RUPERTI (ボナヴェントゥーラ・ルペルティ) 先生
 (カフォスカリ大学 アジア・北アフリカ研究学部 日本語 日本演劇教授)
 題目: 新型コロナウイルス禍のイタリア・ヨーロッパ・日本の対応の違い
 ー舞台芸術を中心にー (発表言語: 日本語)
- ② JACET 関東支部 講演会 (2022年度第3回)
 日時: 12月10日(土) 16:00-17:20
 発表者: マルチェッラ マリオッティ先生
 (カフォスカリ大学 アジア・北アフリカ研究学部 日本語教育学 准教授)
 西田翔子先生 (カフォスカリ大学 日本語講師)
 題目: ヴェネツィア・カフォスカリ大学での日本語教育ー多様な実践のあり方へー
- ③ J B C A (国際ビジネスコミュニケーション学会) 第118回関東支部大会
 日時: 2023年1月28日「グローバル人材に必要な英語以外の能力 ビジネス日本語」
 発表者: イントロダクション (午後4:30 ~4:45) (支部長 藤尾美佐)

 発表者: 第1ゲスト・スピーカー (午後4:45 ~5:15)
 玉田誠様 (東洋大学国際部 次長)
 題目: ビジネス日本語教育のための東洋大学の新たな試み

 発表者: 第2ゲスト・スピーカー (午後5:15~5:45)

マルチェッラ・マリオッティ (Marcella MARIOTTI)先生
(カフォスカリ大学アジア・北アフリカ研究学部准教授)

題 目： イタリアにおけるビジネス日本語教育
—ケース・スタディーとしてのカフォスカリ大学での授業—

④ 現代社会総合研究所 (講演&意見交換会)

日 時： 2022年10月27日 16:30 - 18:00

発表者： Alessandro Mantelli 先生
(カフォスカリ大学アジア・北アフリカ研究学部 助教)

題 目： カフォスカリ (イタリア・ヴェネツィア) 大学におけるICT活用について
(「ICT教育の未来について—対話と実験から見えてくるもの—」現代社会総合研究所編 pp.106-136 に収録)

II 教育上の成果

1) ゲスト・スピーカーの招聘

① 日時：5月26日(月)16:30 - 18:00 (GBCセミナー主催 TGLポイント付き)

発表者： Bonaventura RUPERTI 先生 (ボナヴェントゥーラ・ルペルティ)
(カフォスカリ大学 アジア・北アフリカ研究学科日本語 日本演劇教授)

題 目： 新型コロナウイルス禍のイタリア・ヨーロッパ・日本の対応の違い
—舞台芸術を中心に—

② 日時：6月2日(月)16:30 - 18:00 (GBCセミナー主催 TGLポイント付き)

発表者： Vassilissa Carangio 先生 (American University of Rome 講師)

題 目： Reflexivity and Educational Management in Australia, Italy, and
the UK

2) カフォスカリ大学授業見学報告

① 2022年4月21日(木)14:00 - 15:30 鞠古彩先生 読解 (学部2年生)

② 2022年4月26日(火)13:15 - 13:45 中山悦子先生 作文 (修士1年生)

③ 2022年4月26日(火)14:00 - 15:30 中山悦子先生 文化 (修士1年生)

④ 2022年5月3日(火)14:00 - 15:30 上村薫先生 文法 (学部2年生)

⑤ 2022年5月9日(月)14:00 - 15:30 鈴木正子先生 作文 (修士)

⑥ 2022年10月7日(金)14:00 - 15:30 西田翔子先生 ビジネス日本語 (学部2年生)

⑦ 2023年3月22日(水)14:00 - 15:30 平松舞子先生 自由会話 (学部2年生)

⑧ 2022年9月13日(火) 17:30 - 19:00 Marriotti 先生 外国語教授法 (修士2年生)

⑨ 2022年9月29日(木) 15:45 - 17:15 今村先生 日本語 (修士2年生)

* ⑧, ⑨については, 招待講演による出張を除き, 12月いっぱいまで毎週出席

3) サマー・セミナー授業参加

カフオスカリ大学と Navy Academy のコラボレーションによる夏季限定の特別セミナー (Global Studies) に参加, 修了。

7月18日(月)～8月5日(金)の午前中(4時間)3週間のセミナーだった。最初の2時間は Global Studies に関する様々な話題について, 専門家によるレクチャーがあった。例えば, Food shortage, Water management, Financial Basics, Military など。

それらの知識をもとに, 最後の1週間, 決められたグループで, 与えられた国のカントリー・プロフィールを研究して, 月曜から木曜の間にグループでレポート10枚を提出, 金曜日にはプレゼンテーションを行うというハードスケジュールだった。出席者は主にヨーロッパの学部生及び院生。極めてレベルが高く, これらの学生と話をしたところ, 1週間の学習量が日本とあまりにも違うことに愕然とする。こうしたレベルに日本の大学生が達するためには今後何をすべきか考える事は大きな課題。

4) 初級イタリア語 (オンライン) 授業参加

カフオスカリ大学が主催する オンラインでのイタリア語の授業に参加。2022年10月3日(月)から12月5日(月)まで。週に2時間の授業と, プラス30分の対話練習。オンラインのため授業は非常に分かりにくかった。しかし, 最終日12月5日(月)の筆記試験, 口頭試験にはいずれも合格し, イタリア語の CEFR A1 を取得した。

5) 東洋大学・カフオスカリ合同授業

イタリアと日本の学事日程が異なるため, スケジュールをすり合わせるのが非常に難しかったが, 11月から12月にかけて, 私自身の担当する GBC(Global Business Communication) セミナーに, カフオスカリ大学の修士の学生に出席してもらう形で実現した。大学院担当の先生にチラシを配布してもらい希望者を募った。今回は私自身の GBC クラスの学生が10名, カフオスカリの学生が5名だったので, GBC の学生2名にカフオスカリの学生1名が加わって5グループを形成するという理想的な形になった。授業の進捗については以下の通り。

- 1回目 11月7日 日本の若者文化について, 興味のあることを2、3分程度、日本語でプレゼンする。(日本人学生からは同じ内容を英語でプレゼン)
- 2回目 11月14日 興味の似ている日本人学生とグループを組み、ディスカッション
- 3回目 11月28日 4回目の最終発表に向けての準備(細かな表現もチェック)

4回目 12月5日 最終発表（全学に公開，TGLポイント付与）

5つのグループは、初回の興味に応じて、Festival, Food, Anime/Film, Language/Culture, Sub-culture という5つにグループ分けした。今回の合同授業の特徴は、1)カフオスカリの学生が全員日本語に堪能で、日本に対する大変な興味があったという事、2) 彼らはもちろん英語もできるので、最後の最終発表に至るまでのグループ内でのディスカッションは、日本語・英語の両方を使うことができたという事、3) また最後の発表では、日本人は英語で発表を、イタリア人は日本語で発表を行う（それぞれの自分の学習している言語で発表する）という形を取った事、4) さらにグループリーダーを決め、リーダーがグループメンバーの紹介や司会の役割を担うこととした。発表と同様にイタリア人の場合は日本語で、日本人の場合は英語で司会をすることにしたが、5 グループ中3 グループがイタリア人のリーダーとなり、その辺のバランスも非常に面白かったと思う。この合同授業に関する主なコメントは以下の通り。

<カフオスカリの学生からのコメント>

- ① 藤尾先生、このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。
人見知りを解消し、日本語の訓練とレベルアップを図る良い機会になりました。また、どの発表も興味深く、多くの新しいことを学ぶことができました。
すべてのレッスンがとても魅力的で面白かったです。どうもありがとうございました！
- ② 藤尾先生、おはようございます。交流プロジェクトは良かったと思います。扱った話題はチャレンジで、おもしろい思考が生まれる機会になったと思います。それにグループの同級生は優しく、Skypeでも話し合っただけで私の日本語を直してくれて本当にありがたいです。

<東洋(GBC)の学生のコメント一例>

- 1) 合同授業で一番面白かったこと・ためになったこと
とにかく今回の合同授業という企画、そしてイタリアの学生と触れ合うこと、全てが面白かったです。スライド作成や打ち合わせのためにコミュニケーションを取る際に、日本の学生と話すよりも相手を気遣う言葉（「元気？そっちはどう？」「この点がすごくいいと思う」など）を自分も言いましたし、イタリアの学生も言ってくれました。この点が、例えば日本には社交辞令があると思いますが、そういった雰囲気ではなく真に相手を思う心が感じられて印象に残りました。また、やはりティーンズの文化（特にナイトライフ）がかなり異なっていて、その点の知識を深められた点がためになりました。

2) 合同授業で一番難しかったこと・Challenging だったこと

一番難しかったことは、イタリアの学生のスライドを推敲する際に、どこまで踏み込むべきかを考える必要があった点です。ついつい、あまり指摘しすぎると失礼にならないか、その人のスライドにならないのではないかなど心配してしまいました。私個人としては、英語学習者として、英語ネイティブの方や英語が上手な方に推敲してもらったり、ニュアンスの違いを指摘してもらったりすることが非常にありがたいと感じています。しかし、もしイタリアの学生がそうでなかったら……と思う思うように指摘し切れない部分もありました。

3) グループ内でどのように通信してたか

基本的にメールを使ってやり取りしていました。2 回ほど、Skype を使ってビデオオン、画面共有オンで通信しました。

4) 合同授業をやった感想 (何ができたかできなかったか, 気持ち, 満足感)

まず、とにかく合同授業は非常に楽しく、今まで受けた授業の中でもかなり思い出に残るものとなりました。コロナ禍で海外の人や留学生との交流も2年次以降全くなかった中、とても嬉しい機会でした。ありがとうございます。ただ、全体的に、やはりスライドや発表原稿にかける情熱の差が日本の学生とイタリアの学生の間に大きなギャップとなってしまっていたように思います。これは今回の発表に限ったことではなく、3年間 GBC を続けてきた中で、やる気がある人とそうでない人の差をずっと感じてきました。例えばプレゼンテーションや一授業のブレイクアウトセッションに分かれた際、正直やる気のない学生の存在はやや足枷となっていました。そういった日本人大学生の空気感が今回の発表にも現れていたと思います。その点が非常に残念でした。しかし、私個人のチームでは発表、プロセス、コミットメントの全てにおいて非常に満足しています。

5) ビデオを見てさらに気づいたこと

画面の向こうに人がいると思って表情に気をつけて話したつもりでしたが、にこやかさやアイコンタクトが不十分であったことに気づきました。また、以前の GBC 内でのプレゼンテーションで、原稿を読むことに気を取られて語りかける口調にならなかったためその点に気をつけたのですが、そこについても改善する余地があると感じました。しかし、前回よりは聞き手の頭に入りやすく話せたように思います。今回特に話し方において注意した点は、「What do you think?」のようなフレーズを入れること、文節ごとに息継ぎをすること、重要なことは抑揚をつけ言い切った後に一息置くことの3点です。これらに関しては、自分が意識している以上にもっとオーバーにリアクションする必要があると思いました。

6) 今後どのように授業を改善（広げて）いけるか

合同授業に限らず、やる気のある生徒とそうでない生徒の間に大きな差があると思います。この点を如何に改善していけるかが、今後より楽しい授業になる鍵となると思います。他の授業でもそういった課題はあると思うのですが、どうしてもゼミやGBCのように少人数の授業だとそれが目立ってしまう気がします。具体的には、履修時に制限をかけたり（今までの授業の出席率、GPA、GBC履修が2回目以降の人は前回の態度などを基準として）、グループワークはやる気のある生徒同士を先生がチョイスしたり（これはやる気のない生徒が2~3人いる場合になりますが）と、全体を上方向にシフトしていけると尚良いのではないかと思います。

次に最後の公開授業でのコメントを紹介する。これは東洋大学のレスポンドとったコメントなので、カフォスカリの学生のコメントは含まれていない。実際にはもっと多くの参加者があったが、コメントを書いたのはこの人数のみ。GBC学生と書かれていないところは、他学部の学生のコメント。

	今日の合同授業で一番興味深かったところ	今日の合同授業で改善できるところ
GBC学生	大手の企業の人々が直々に来てくれていたこと。大手の人をお願いしてくださった先生の凄さに感動しました。	スピーチをもっと練習しておくべきだったこと。自分が話すときになったタイミングで言いよどんでしまいました。
GBC学生	The most interesting part of the class was the content of the group presentation on the topic of "Culture and Language".	I can't think of anything that needs to be improved at the moment. I think everything went well. Everyone was very positive and the presentations were very informative.
GBC学生	イタリア人学生の発表を通して知らない日本文化を知れた点	グループ内の発表と発音の繋ぎ目を滑らかにする点
	グループ2の食文化についてです。私は日本人ですが、大阪が食い倒れの街として有名なのは知っていたが、そう呼ばれる歴史や経緯については知らなかったのが興味深かった。	日本の文化をもっと知ることによって、自分が海外に行った時に交流の糸口になったり、会話の幅が広がると思った。なので、これからは英語だけでなく、日本の文化も一緒に学んでいきたいです。また、海外に行った際に海外の文化を生で学びたいと思いました。

GBC 学生	異なる文化について面白かった。	今回はもう順調に進めたと思います。
	イタリアにも日本と同じように方言があること。	スライドが隠れてたり小さかったりして見えにくいことがあった
GBC 学生	プレゼンテーションを通じてお互いの文化交流が出来たこと。	自分のプレゼンで、パワーポイントをもっと分かりやすく伝えたいことを簡潔にするべきだった。
	サブカルチャーとカウンターカルチャーのトピックを選んでいたグループ。サブカルチャーがメインストリーム化しているという表現を知って、その意味を理解して驚いた。	自分の話になりますが、日本人である私に、日本の歴史について認識していない部分が多いなと感じたので、暇なときに調べてみようと思いました。
GBC 学生	年末年始の文化が面白かったです。特に、イタリアの文化として年始には花火が上がるということでしたが、その際にジョイアさんが「他の国と同じように」と説明したと思います。しかし、日本では花火が上がることはなく、意外と日本の方が少数派なのかなと気になりました。全体を通して、準備の時点を含めてとても楽しい合同授業でした。可能なら来年も在籍したいくらいです。企画していただき、本当にありがとうございました。	トータルの話す長さは 15 分と決まっていたのですが、普通は 5 分 5 分 5 分で分担するはずが、極端に短い人もいた点が気になりました。また、スライドも 1 枚だけ出している人と、話に沿って展開している人がおり、興味の惹かれ方が全く異なりました。次回以降、スライドの下限を設けたら、より足並みの揃った発表になるとと思いました。
	Festival	
	東洋の学生は英語で、イタリアの学生は日本語で発表する点です。とても魅力的だと感じました。	発表者の顔出し 顔出しをした方がより伝わりやすいと思いました。
	大阪の料理についてイタリア人学生がプレゼンテーションをしていたところ。大阪の歴史や文化についても触れていて、それを日本語で発表していることが興味深く、日本人よりも大阪について詳しいと感じた。	開始時間に発表者をそろえること。

	アニメについて一番興味深かった。	ほかの学生と一緒に話す時間があった方がいと思う。
GBC 学生	今日の合同授業で最も興味深かったところは皆さんの語学力を試せたところです。	これから改善できる部分はもう少し共同で作業ができる期間があればよかったなとかんじました。

このように今回の合同授業は、英語と日本語の言語を使ったという点が特徴的であり、合同授業に幅を持たせることができたと思う。またトピックの内容を、若者の文化（Youth Culture）としたことで、とっつきやすい授業となり、最後のプレゼンテーションは予想以上の成果を上げることができ、有意義な合同授業になったと思う。

今後、これを自分の GBC クラスだけに留めるのか、また経営学部内に拡げるか、さらに大学全体のプログラムとするかは、いかようにも発展させることが可能である。

III その他データ収集と今後の発表

以上の成果に加え、さらに以下のデータ収集を行った。これらは今後随時論文や学会にて発表していく予定。

- 1) 日本人留学生へのインタビュー（14名）→ 異文化間コミュニケーション能力の変化や英語圏以外の留学先をなぜ選んだかについて今後分析する予定。JACET(大学英語教育学会)の2024年関東支部会か国際大会で発表予定
- 2) 日系企業のインタビュー（日本人2名、イタリア人5名）→ 異文化マネジメント及び異文化間コミュニケーションの問題点と可能性について分析予定。ABC(Association for Business Communication)の2024年年次大会で発表予定。
- 3) スロベニアの英語教育（小学校2校見学、リュブリャナ大学教授（Professor Skela）へのインタビュー、スロベニア教育庁へのインタビュー）→ JACET(大学英語教育学会)SIG（海外の外国語教育）にて今年度12月に発表予定。本刊行の予定もある。